

立命館災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第13号】 2012年11月22日発行

教職員を主体とした復興支援サポートプログラム（第2期）採択事業を決定

教職員が中心となって取り組む復興支援活動を支援する「教職員を主体とした災害復興支援活動へのサポートプログラム」の第2次募集を実施し、審査をへて5件のプログラム採択を11/16（金）発表しました。

■第2次サポートプログラム 採択状況

- 募集期間：9/28（金）～10/26（金）
- 応募資格：専任教職員による申請であること、支援金額（支援採択金額の50%）以外の必要経費が確保されており、採択の有無にかかわらず実施を見込んでいること等
- 申請件数合計：5件
- 採択件数：5件
- 支援金額計：1,720,000円

企画名称	申請代表
復興支援ショップ～笑顔を全てのひとに～	林 純次 立命館守山中学・高等学校教員
東日本・家族応援プロジェクト2012in 福島	村本 邦子 応用人間科学研究科教授
学生による福島県情報発信プロジェクトと“風評被害”に代わる概念構築の試み	佐藤 達哉 文学研究科教授
石巻市雄勝地区の復興計画および景観ガイドライン策定に向けたフィールドワーク	堀口 徹 理工学部建築都市デザイン学科准教授
震災を理由に棄てられないための仕組みの構築支援	立岩 真也 先端総合学術研究科教授

また、復興+R基金でのAPU学生および附属校生徒を主体とした災害復興支援活動サポートプログラム募集も引き続き行い、今回立命館守山中学・高等学校の取り組みを採択しました。

企画名称	申請代表
人と人をつなぐボランティア	八反 和之 立命館守山中学・高等学校教員

* 各採択事業の概要等は、立命館災害復興支援室ホームページにて公開しています。

立命館の復興支援活動に
岩手県宮古市社会福祉協議会から
「感謝状」が贈られました

11月17日（土）岩手県宮古市で開催された第7回宮古市社会福祉大会において、学校法人立命館へ感謝状が授与されました。この感謝状は立命館による同市の重茂地区、鉾ヶ崎地区の簡易集会所の建設、10次にわたる学生・教職員によるボランティアバスの運行などの活動が評価されたものです。全体で36団体・個人に贈られましたが、大学で授与されたのは本学のみでした。



仮設集会所建設プロジェクト
木製模型を展示開始
@BKC コアステーション1階

災害復興支援室と広報課は、理工学部の宗本研究室のご協力をいただき、BKCのコアステーション1階フロアに、岩手県宮古市に建設した仮設集会所ODNSEの模型を設置するとともに、災害復興支援の教職員・学生の復興支援の取り組みを紹介するパネルを展示しています。災害復興支援室のパネルには、これまでの後方支援スタッフ・ボランティアバスでの学生たちの活動の写真も多数掲載しています。

コアステーションでの展示期間は、12月末までを予定しています。ぜひ、BKCの展示コーナーへお立ち寄り下さい。

▼コア1階ロビーでの設営の様子(写真左下)



クリスマス＆春休み期間
ボランティアバスを派遣します

災害復興支援室のボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣」を、岩手県大船渡市、宮古市にてクリスマス期間、および春期休暇中に実施します。補講日程等の調整がつく方は、ぜひ参加を検討してください。また、引率を担当する職員もひきつづき若干名募集中です。

■ガイダンス開催のお知らせ

派遣の詳細を発表!!
後方支援スタッフ ガイダンス

<事前申し込み不要>

- 日時：11/28（水）18：00
- 場所：衣笠・BKC両キャンパス
- 【衣 笠】研心館632教室
- 【BKC】フォレストハウス109
- 内容：クリスマス派遣の詳細発表
- 2月、3月派遣予定について
- 参加学生による体験報告
- 質疑応答

* 実際のエントリーにあたりガイダンス参加は必須ではありません。

【後方支援スタッフ派遣 報告】
第13便・岩手県大船渡市にて
漢字探検隊の実施

災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」派遣（ボランティアバス）第13便が、10/11（木）から10/16（火）の日程で岩手県大船渡市を訪問。今回は学生8名、引率職員1名が参加し、活動を行いました。

■第13便 活動レポート

第13便は10/12（金）に東北に入り、10/13（土）・14（日）と大船渡リアスホールで実施した「大船渡漢字探検隊」のスタッフとして活動。設営準備、撤収他、各日約70名におよぶ参加者の当日対応を行いました。また、10/15（月）には地の森仮設団地集会所で、お茶っこサロンを開催。25名程度の参加があり、宇治茶や持参のお菓子、折り紙などで交流を行いました。



【レポート】学園祭での復興支援
模擬店・展示で学生が奮闘

立命館大学学園祭が11/3-11/4（BKC）、および11/10-11/12（衣笠）が開催され、東日本大震災や国内の災害発生地域での復興支援に関する活動に取り組む学生による模擬店や企画展示が実施されました。各企画に訪問した来場者の方からは、学生が取り組む支援活動についての質問だけでなく、東北でどのような活動をしたか、どんなお話を耳にしたか等でも会話がはずみ、様々な組織で復興支援活動に取り組む学生同士でも情報交流が行われ、支援活動

これからの主な取り組み

○11/25 日本文化デザインフォーラム「三陸海岸の民俗芸能の復興と現状」（映像学部 大森教授）3.11 震災発生の一ヶ月後から岩手県と宮城県雄勝半島の民族芸能の復興と現状を追った記録映像を上映後、対談および意見交換が行われます。

○11/26 - 11/30 みちのく Photo Caravan in 立命館大学@以学館ホール（みちのく Caravan 関西支部）国内の様々な大学で、内容を時間経過とともに更新しながら巡回している展示で、東日本大震災に関する写真が展示されます。

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています

の継続の必要性を確認しあう機会となりました。



【レポート】スポーツ健康科学部
大船渡猪川小学校で運動支援

10/27（土）立命館大学と大船渡市との災害支援連携協定の一環として、スポーツ健康科学部が大船渡市立猪川小学校家庭教育学級のプログラムにおいて、同小学校に通う小学生の父母や児童を対象に運動教室を開催しました。教室では、「美ボディ」をテーマに各家庭でも短時間でできる体の引き締めやシェイプアップを目的とした運動を、音楽にのせて楽しく実施できるプロ

グラムを紹介。約100名の参加者にセラバンドというスポーツ健康科学部で開発されたゴムバンドを配布し、3名の教員と7名の学生・大学院生のもと、運動指導を行いました。



【レポート】応用人間科学研究科
東日本・家族応援プロジェクト
in 大船渡

11/2（金）立命館大学大学院応用人間科学研究科が「東日本・家族応援プロジェクト」を大船渡市にて開催しました。このプロジェクトは、応用人間科学研究科が持つ専門的知識、技術及びネットワークを活用し、家族支援という視点で被災地や被災者に対する復興支援の一助となることを目的とした対人援助の取り組みとして2011年度より開始しているものです。2012年度はむつ市、京都市、仙台市で同企画を開催、今後は二本松市、福島市での開催を予定しています。今回、大船渡市で開催された企画詳細は応用人間科学研究科のホームページで公開中です。



▼企画の様子：団教授の「家族漫画展」

編集後記

寒くなりましたね。支援室では今後のボランティアスタッフ派遣に向け、冬用の寝袋を購入しました。北海道からは早速初雪の便りが届いていましたが、大活躍そうです。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第13号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsume.ac.jp

HP <http://www.ritsume.ac.jp/rs/20110311/>